

【国立市】 校務DX計画

令和6年12月に公表された『「GIGA スクール構想の下での校務DXチェックリスト」に基づく自己点検のフォローアップの実施結果』において、国立市の自己点検結果は540点中365点であった。令和5年度における自己点検結果から70点の数値上昇がみられるが、これは各種会議における資料のペーパーレス化促進や、市立全中学校へのデジタル採点システムの導入などによる効果だと考えられる。

一方で、保護者や児童・生徒への通知や配布物のデジタル化、学校から教職員に提出させる事務手続書類のはんこレス・ペーパーレス化などの状況はまだまだ発展途上にある。そこで、国立市においては、以下の取組や検討を今後行い、校務DXを進めていく。

1 クラウド型の統合型校務支援システムの導入

現在国立市では、教職員が学校設置の端末からのみ校務支援システムにアクセスすることができる状況にあり、校務支援システムにアクセスするためには、勤務校への物理的な出勤が必須となっており、教職員の多様な働き方の障壁となっている。

これを解消するため、東京都が主催する「統合型校務支援システム共同調達検討部会」に引き続き参加し、場所に依存しないクラウド型の統合型校務支援システムの導入及びゼロトラストを基本としたセキュリティ構築を検討していく。また、学籍管理系システム等と連携させるなど、情報セキュリティに配慮しつつ、学校における情報の可用性を高め、名簿情報の重複した手入力作業など教職員の事務負担の省力化を実現できるよう検討していく。

2 学校と保護者や児童・生徒との連絡等のデジタル化促進

国立市では、令和4年度に学校と保護者とのデジタル連絡システムを導入し、児童・生徒の出欠席連絡や保護者への資料配布等における省力化・ペーパーレス化を進めてきた。今回の自己点検では、出欠席連絡を完全にデジタル化した学校は約半数、資料配布等を半分以上デジタル化した学校も約半数という結果であった。また、その外の児童・生徒への連絡等についても、デジタル化が50%程度に留まっている学校が半数程度あった。

今後、各家庭の様々な事情に配慮しつつも、導入したシステムの操作・活用研修の継続的な実施や、市内外の取組事例及びその効果を市立小・中学校全体で共有する場を設けるなど、学校と保護者、児童・生徒の双方に対してより効果的なデジタル化の実現を目指していく。

3 はんこレスの促進

国立市の自己点検結果において、多くの手続きにおいて未だ紙媒体をもって事務処理しており、そのことが紙の使用が多い結果となっている。教職員の出勤簿、休暇簿等が、未だ紙媒体に押印をする形式で管理されているため、勤怠管理における学校現場の負担が大きい状況にある。また、市立学校において、事業者や各種団体との連絡にFAXを多用している現状がある。

これらの状況を改善するため、市立学校教職員用の勤怠管理システム（庶務事務システム）導入実現に向けた財政当局等との協議を継続し、早期にはんこレスの勤務環境を実現していく。また、FAXの利用廃止に関しては、事業者等へ協力を依頼する必要があることから、他自治体の対応状況を調査し、国立市における対応方針を引き続き検討していく。